

名古屋駅駅前広場の再整備プラン

中間とりまとめ



名古屋市
2019年1月

「デスティネーション世界の目的地となる名古屋ランドマークの顔づくり」に向けて

初代名古屋駅は、明治19年に現在の笹島交差点付近に建設され、当時の名古屋区長吉田禄在による東海道線計画の実現により、駅と名古屋港とをつなぐ中川運河とともに、名古屋の暮らしとものづくりの発展の基盤を築いてきました。

昭和12年には、笹島から現在の位置に新築移転され、竣工当時は「東洋一の駅ビル」と言われ、名古屋の玄関口として多くの市民から親しまれてきました。また、昭和39年には、東海道新幹線が開業し、以降現在まで名古屋駅は発展し続けてきました。

東京・名古屋・大阪の3大都市圏は、2027年に東京－名古屋間、また2045年には大阪まで、リニア中央新幹線によって結ばれる予定となっており、ひとつの巨大な都市圏が誕生します。名古屋市では、圏域の真ん中に位置する立地のポテンシャルを活かし、多くの人に名古屋のまちを訪れていただけるように、名古屋の魅力的な文化や芸術などを積極的に発信していきたいと考えています。

現在、木造復元を進めている名古屋城天守閣は、世界にひとつしかないシンボルになり、市民の誇りになると思います。リニア開業という空前のチャンス逃がさず、名古屋のまちを盛り上げていきます。また、名古屋の大きな魅力のひとつには、食文化もあります。名古屋駅にほど近い柳橋市場の新鮮な食材や近年注目を集めているなごやめしなど、名古屋の食文化を世界に発信していきたいと考えています。

皆さまに名古屋に来ていただき、名古屋駅から「あそこへ行ってみようか」と思っただけよう、名古屋城や柳橋をはじめ、大須、四間道、円頓寺、納屋橋、堀川など名古屋駅周辺の観光名所と連携し、駅とまちが一体となった回遊空間の形成に取り組んでまいります。

リニア開業に向けて、多くの人に足を運んでいただくために、名古屋がデスティネーション世界の目的地となるよう、まちのにぎわいづくりに取り組むとともに、玄関口である名古屋駅が名古屋ランドマークの顔となるよう、駅前広場の再整備を進めていきます。

この「名古屋駅駅前広場の再整備プラン（中間とりまとめ）」をもとに、名古屋駅の駅前広場における、デスティネーション「世界の目的地となる名古屋ランドマークの顔づくり」について、皆さまから広く意見を伺いながら引き続き検討を進めてまいりますので、今後とも、ご理解とご協力をお願いいたします。

平成31年1月

名古屋市長
利村たかし



目 次

01	1. 目的・位置付け
03	2. 名古屋駅周辺の歴史と将来
05	3. 現状と課題
07	4. 基本コンセプト
09	5. 東側エリア
13	6. 西側エリア
15	7. バリアフリー対応
17	8. 関連プロジェクト
19	9. 今後の進め方

参 考

名古屋駅駅前広場の再整備プラン

中間とりまとめ

1. 目的・位置付け

2027年リニア中央新幹線開業（予定）に向けて

2027年リニア中央新幹線開業（予定）を機に世界都市にふさわしいまちづくりを推進するため、名古屋駅周辺におけるまちづくりの基本方針を掲げ、駅前広場の整備をはじめ、各交通施設について、今後の整備内容を具体化するための方向性を示してきました。

また、統一感のある質の高い象徴的な空間形成を実現するため、トータルなデザイン形成に向けた検討を進めています。

名古屋駅周辺まちづくり推進懇談会
平成27年3月～



会議風景

『名古屋駅駅前広場の再整備プラン【中間とりまとめ】』

まちづくり構想や交通基盤整備方針における名古屋駅の将来の考え方や方向性等をもとに、これまで協議や検討を進めており、現時点における検討内容のとりまとめとして

駅前広場の再整備の基本コンセプト／東側エリアの再整備の方向性／西側エリアの検討の方向性についてお示ししています。

本再整備プランをもとに、市民や民間事業者、まちづくり団体等のご意見を取り入れながら、引き続き検討を進め、実現に向けて取り組んでいきます。

名古屋駅周辺まちづくり構想 平成26年9月策定

リニア中央新幹線開業後のまちを見据え、多様な主体がまちづくりを進めるための共通目標となる基本方針と具体的な取組を示しています。



名古屋駅周辺まちづくり構想

平成26年9月 名古屋市

■ 目標とするまちの姿

世界に冠たるスーパーターミナル・ナゴヤ
～国際レベルのターミナル駅を有する魅力と活力にあふれるまち～

高いレベルの機能性を備えたまちづくりを着実に進めるとともに、広く観智を集め、世界の人々が集まり、魅了し続けるまちを目指します。

■ まちづくりの基本方針

【基本方針1】 国際的・広域的な役割を担う圏域の拠点・顔を目指す

- (1) 国際的・広域的なビジネス拠点・交流拠点を形成する
- (2) 玄関口にふさわしい風格とにぎわいを感じさせる顔づくりを進める
- (3) ビジネス拠点・交流拠点にふさわしい安全性を確保するとともに、環境負荷の少ないまちを形成する

【基本方針2】 誰にも使いやすい国際レベルのターミナル駅をつくる

- (1) 初めての人や外国人にもわかりやすいターミナル駅を形成する
- (2) リニアの速達性を活かすなど交通機関相互の乗換利便性を向上する

【基本方針3】 都心における多彩な魅力をもったまちをつくり、つないていく

- (1) 城下町から超高層ビル群まで新旧織り交ぜた多様なまちの魅力を育て、活かす
- (2) 人が主役の歩いて楽しい空間を形成し、回遊性を高める

【基本方針4】 リニア開業を見据え、行政と民間が一丸となって着実に構想を実現する

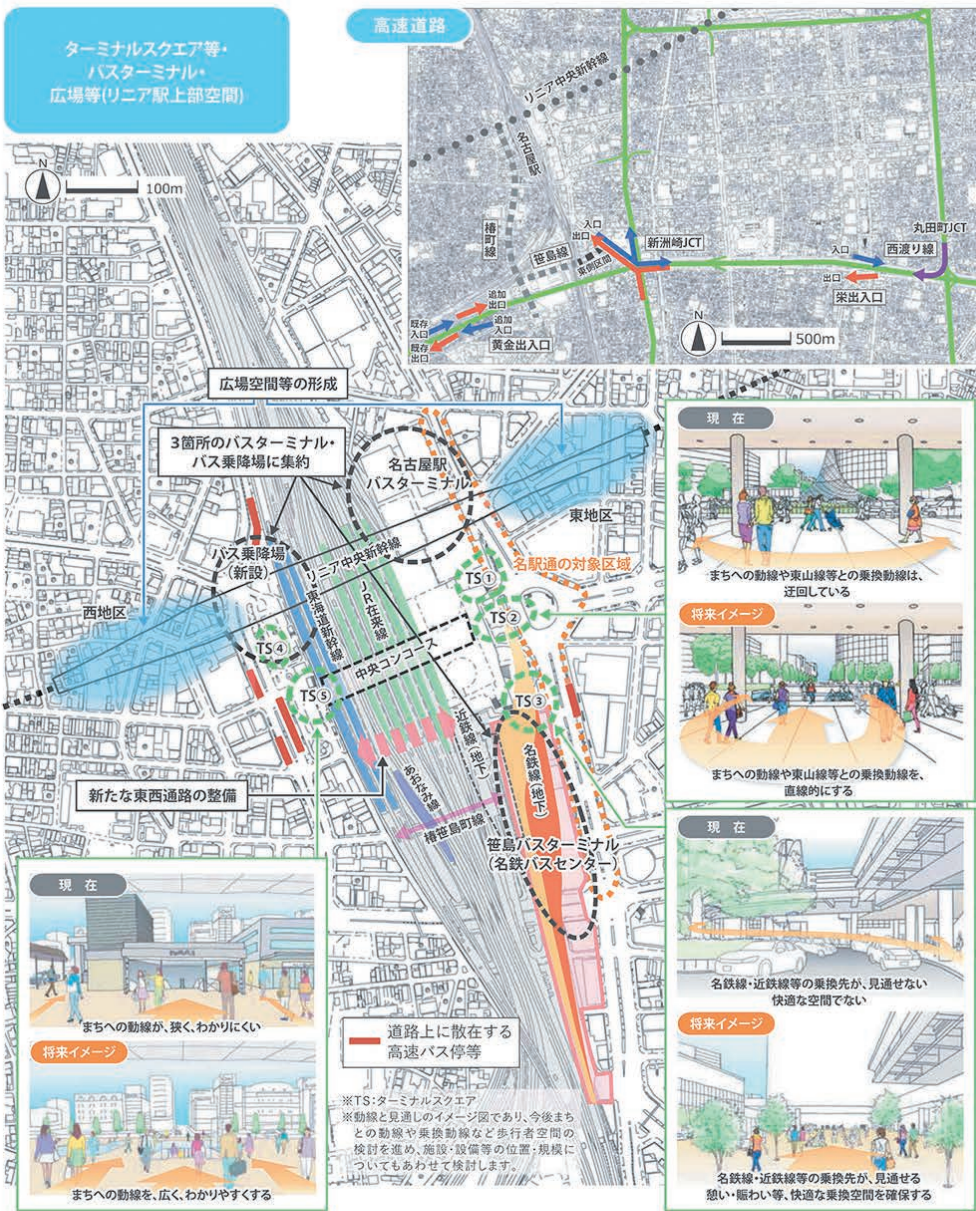
- (1) まちづくり構想を実現するため、行政がリーダーシップを発揮するとともに、行政と民間、民間相互など様々な主体が連携・協働してまちづくりを推進する

名古屋駅周辺交通基盤整備方針 平成30年3月策定

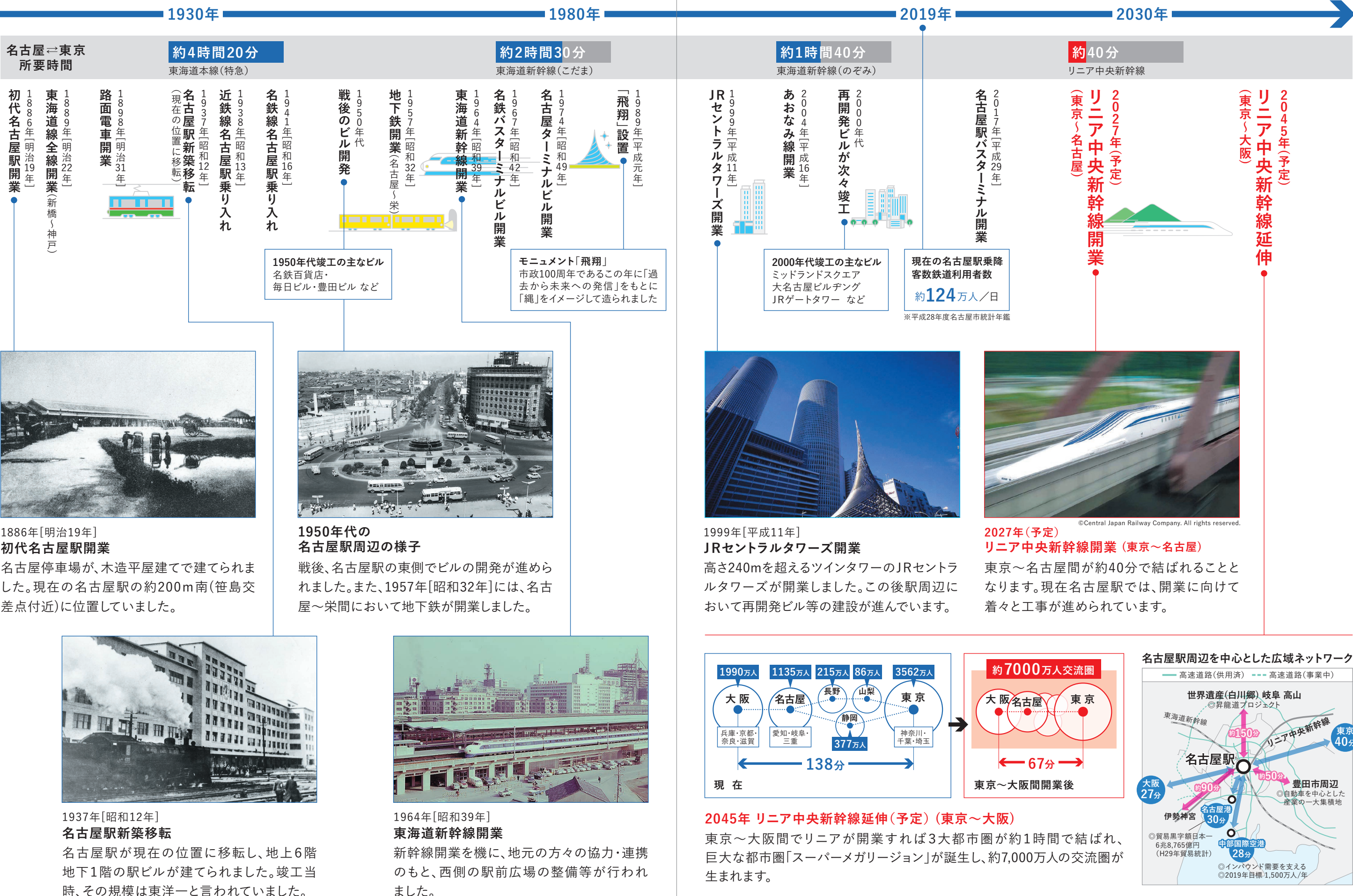
まちづくり構想に掲げる主要プロジェクトのうち、交通基盤関連プロジェクトを中心に各交通施設について、今後の整備内容を具体化するための方向性を示しています。



名古屋市
平成30年3月



2. 名古屋駅周辺の歴史と将来

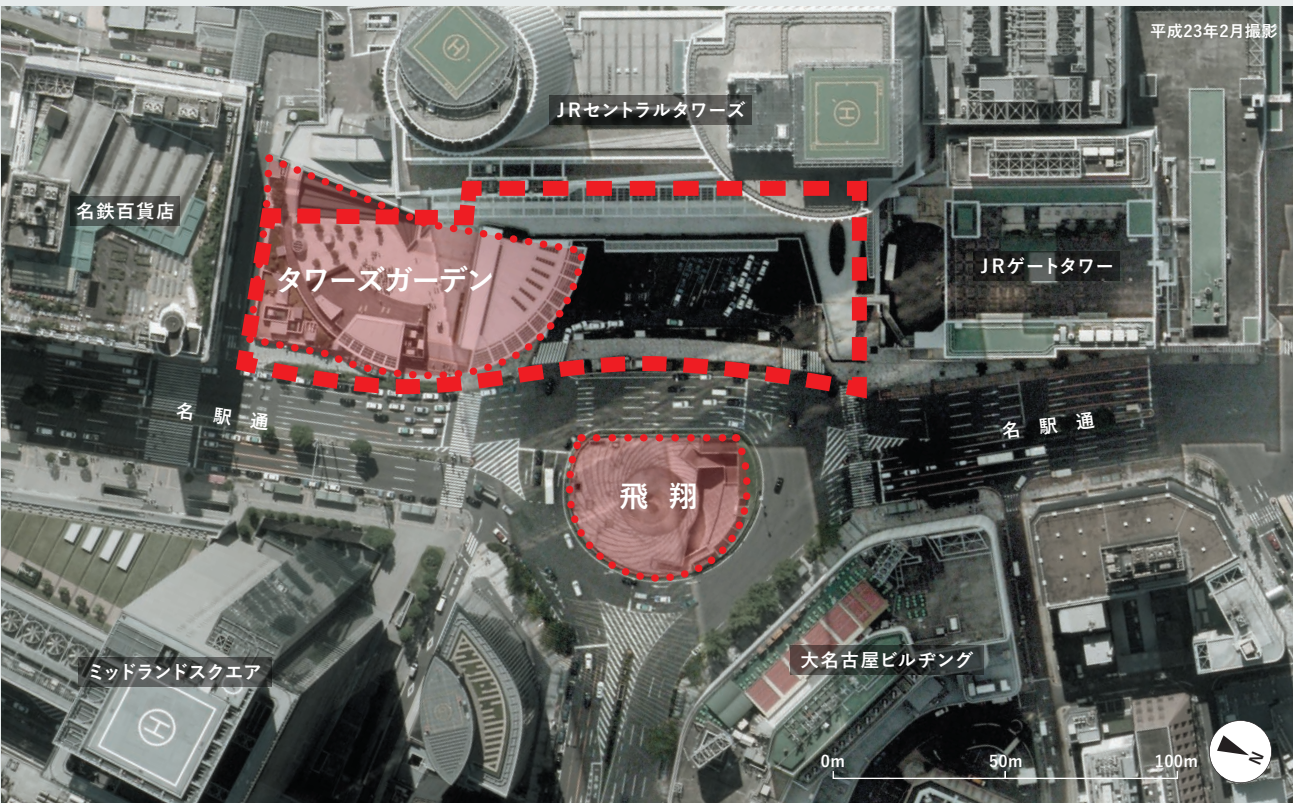


3. 現状と課題

■東側エリア

駅前広場の現状

駅前のロータリー交差点や一般車降車場・タクシー乗降場の配置により、駅前空間が狭く、また、まちの発展に伴い、人のための空間やまちとのつながりが不足してきています。



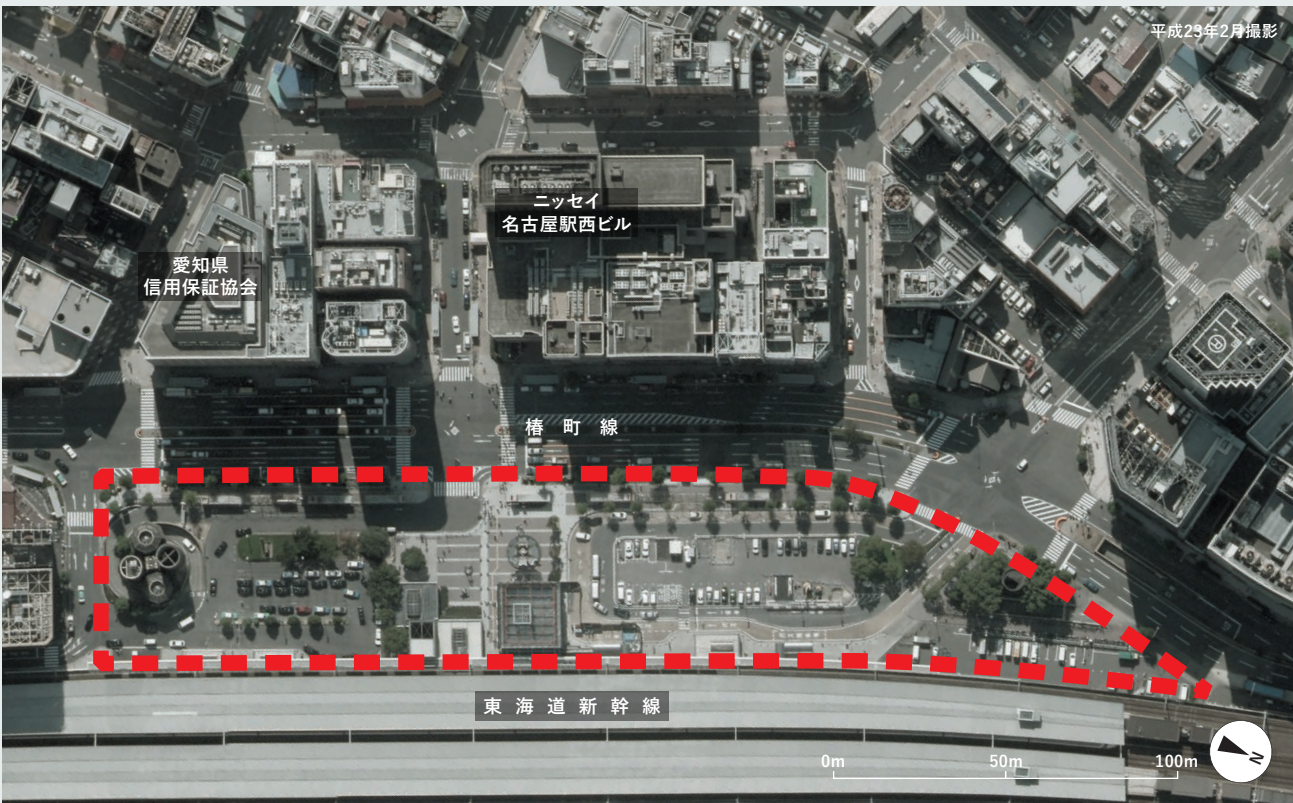
駅前広場の課題



■西側エリア

駅前広場の現状

西側の駅前空間は、歩行者空間が狭いことなどにより、駅とまちが分断されており、まちとのつながりや回遊性が乏しい空間となっています。



駅前広場の課題

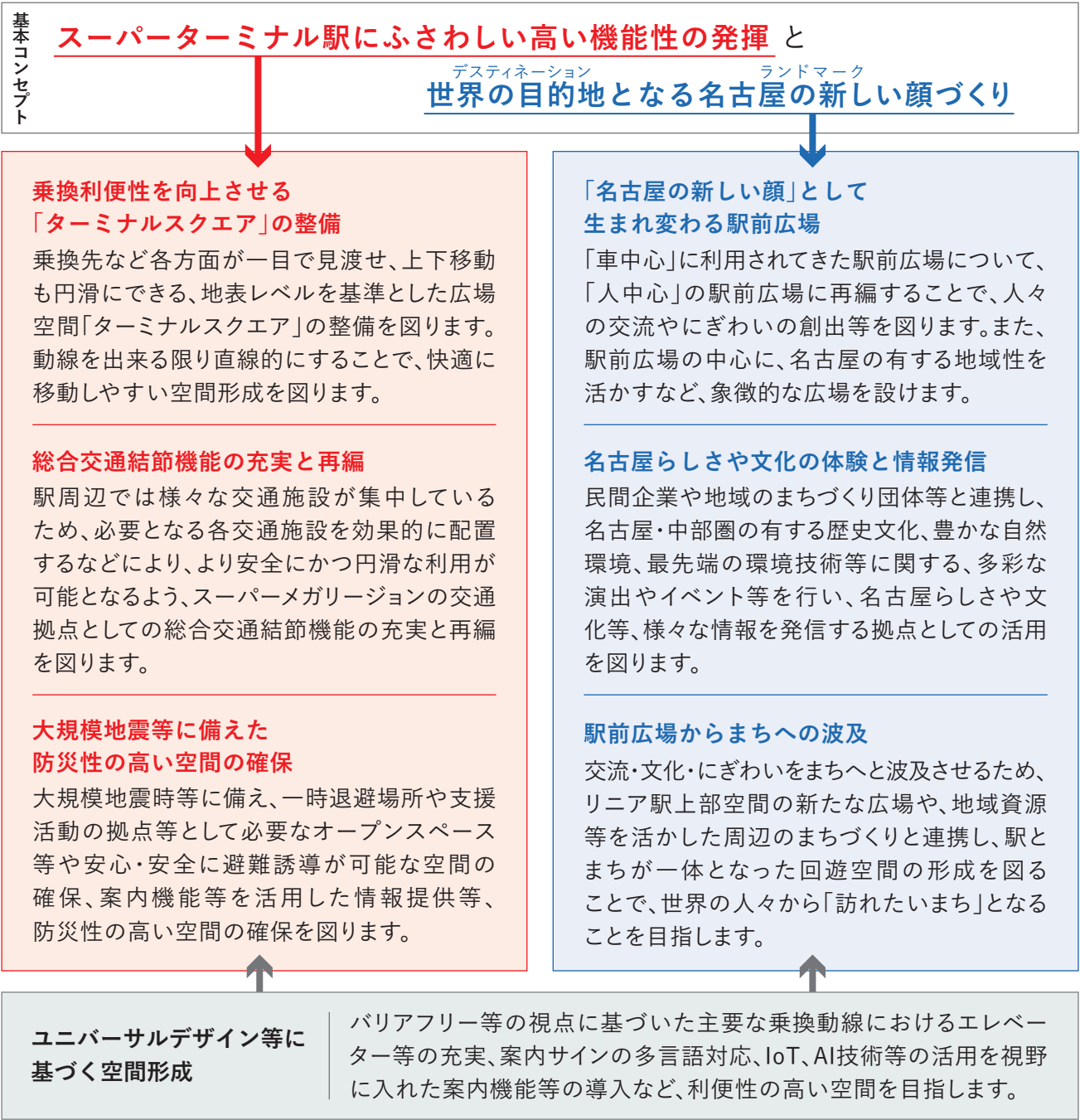


4. 基本コンセプト

■これからの名古屋駅に求められるもの

スーパーメガリージョンの交通拠点	名古屋駅周辺地区は、スーパーメガリージョンのセンターに位置する交通拠点として、鉄道や高速道路のネットワーク等を最大限に活かすことが求められています。
快適な乗換空間	動線上の段差が多く、乗換先が視覚的にわかりにくいなど、スムーズな乗換が困難となっており、誰もが利用しやすい乗換空間としていくことが必要です。
ターミナル駅にふさわしい空間	風格や魅力に乏しく、また、人が集い、憩える空間が不足していることから、ターミナル駅にふさわしい空間づくりを進めていくことが求められています。

■整備の基本的な考え方



■整備の基本的な考え方／イメージ

